



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年12月26日

上場会社名 株式会社ダイヤモンドダイニング 上場取引所 東
 コード番号 3073 URL http://www.diamond-dining.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松村 厚久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 須藤 大輔 TEL 03-6858-6080
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績（平成26年3月1日～平成26年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	19,005	4.1	572	185.2	570	125.3	201	186.7
26年2月期第3四半期	18,255	△0.8	200	△26.7	253	△30.7	70	—

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 182百万円 (81.4%) 26年2月期第3四半期 100百万円 (—)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	85.39	84.86
26年2月期第3四半期	29.54	—

(注) 平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。なお、前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第3四半期	14,157	3,114	21.9	1,316.40
26年2月期	12,422	2,990	23.9	1,264.20

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 3,093百万円 26年2月期 2,970百万円

(注) 平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	25.00	25.00
27年2月期	—	0.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

3. 平成27年2月期の連結業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,916	4.6	1,037	45.4	978	25.8	302	79.1	127.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 1社（社名）KOMARS F&B PTE. LTD.、除外 1社（社名）-

(注) なお、当社の連結子会社であるKOMARS F&B PTE. LTD. は、平成26年10月1日付でDiamond Dining Singapore Pte. Ltd. へ商号変更しております。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ： 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ： 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ： 無 |
| ④ 修正再表示 | ： 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年2月期3Q	2,422,000株	26年2月期	2,422,000株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	56,382株	26年2月期	56,300株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年2月期3Q	2,365,667株	26年2月期3Q	2,384,592株

(注) 平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来見通しに関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因により本資料記載の予想と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 表示方法の変更	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年3月1日～平成26年11月30日)におけるわが国経済は、現政権下における各種政策などにより、雇用情勢は改善傾向にあり、個人消費は持ち直しの動きが続くなど景気は緩やかな回復基調が続いておりました。また、景気の先行きにつきましても、雇用や所得環境の改善傾向が続くなかで各種政策の効果もあり、緩やかに回復していくことが期待されておりますが、消費者マインドの低下や海外景気の下振れなど、わが国の景気を下押しするリスクは未だ残っており、不透明さが残る状況でありました。

当社グループを取り巻く経営環境におきましても、外食業界における企業間の顧客確保の競争は激しさを増しており、当業界を取り巻く経営環境は一部に景気回復の兆しはあるものの引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、『世界一のエンターテイメント外食企業グループ』へ向けた収益基盤強化を図るため、当第3四半期連結累計期間におきましては、前期に集約した高収益業態店舗の新規出店及び既存店舗の更なるブラッシュアップに取り組んでまいりました。

セグメント業績は以下のとおりであります。

① 飲食事業

マルチ(複数)ブランド戦略を推進する飲食事業におきましては、当社グループの強みである「コンセプト」・「空間」・「ストーリー」を一層魅力あるものにし、お客様のリピート率向上を図るため、従来以上にQSC(Quality:品質、Service:サービス、Cleanliness:清潔さ)の強化・徹底に取り組むと同時に、今後の集客力強化及び売上高施策の一環として、予約コールセンター及びオンライン予約システムの利便性強化、DDマイル(ご予約者様専用のポイント制度)の会員数増加施策の仕組み作りを努めてまいりました。

また、当社グループは、平成26年4月30日に「KOMARS F&B PTE. LTD.」の全株式を取得し、完全子会社化することにより6店舗増加し、当社の完全子会社である株式会社ゴールドデンマジックは、平成26年10月1日の事業譲受により8店舗増加いたしました。店舗展開状況につきましては、11店舗の新規出店、5店舗の業態変更(業態変更による店舗統合により2店舗減)、3店舗の退店により計196店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は14,026百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益は1,115百万円(前年同期比34.1%増)となりました。

② アミューズメント事業

「BAGUS」ブランドにて展開しておりますアミューズメント事業におきましては、ビリヤード・ダーツ部門では初心者ターゲットとした新規顧客層の獲得による顧客層拡大に注力する一方、一部店舗におきましてフレアショーを導入し、エンターテイメントによりお客様満足度を向上させる施策を導入するなど、既存店舗のブラッシュアップに努めてまいりました。複合カフェ部門では非稼働エリア・非稼働時間帯の稼働向上策を実施する事で集客力向上に取り組む一方、MSR(ミステリーショッピングリサーチ)への取り組み強化により、お客様満足度の向上に取り組んでまいりました結果、店舗展開状況につきましては、3店舗の新規出店、1店舗の退店により計45店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,934百万円(前年同期比7.5%増)、セグメント利益は582百万円(前年同期比57.7%増)となりました。

③ ライセンス事業

ライセンス事業におきましては、「やきとり ○金」業態のライセンス募集だけではなく、「九州 熱中屋」業態のフランチャイズ募集に注力し、継続的な事業説明会、店舗見学会等による積極的な加盟店募集に注力いたしました結果、店舗展開状況につきましては、3店舗の新規出店、3店舗の退店により7店舗となり、当第3四半期連結累計期間の売上高は43百万円(前年同期比18.7%増)、セグメント利益は13百万円(前第3四半期連結累計期間は36百万円のセグメント損失)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの直営店舗数は241店舗、連結業績は、売上高19,005百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益572百万円(前年同期比185.2%増)、経常利益570百万円(前年同期比125.3%増)、四半期純利益は201百万円(前年同期比186.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ1,735百万円増加し、14,157百万円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金、有形固定資産、無形固定資産がそれぞれ402百万円、594百万円、285百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,612百万円増加し、11,043百万円となりました。主な要因といたしましては、社債が350百万円減少したものの、長期借入金、1年内返済予定の長期借入金、未払費用がそれぞれ1,214百万円、407百万円、171百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ123百万円増加し、3,114百万円となりました。主な要因といたしましては、利益剰余金が142百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年9月30日付「平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」で開示いたしました平成27年2月期通期の業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

KOMARS F&B PTE. LTD. の全株式を平成26年4月30日に取得したため、連結の範囲に含めております。

なお、KOMARS F&B PTE. LTD. は、平成26年10月1日付でDiamond Dining Singapore Pte. Ltd. へ商号変更しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

前第3四半期連結累計期間において「営業外収益」の「その他」に含めておりました「為替差益」は、重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示しておりました80,596千円は、「為替差益」13,995千円、「その他」66,601千円として組み替えております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,868,942	4,271,461
売掛金	267,477	359,627
商品	8,599	7,751
原材料及び貯蔵品	136,520	153,664
その他	786,046	941,203
貸倒引当金	△1,839	△2,711
流動資産合計	5,065,747	5,730,998
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,279,133	7,942,402
減価償却累計額	△4,605,490	△4,722,194
減損損失累計額	△701,687	△682,739
建物(純額)	1,971,956	2,537,468
車両運搬具	1,714	2,425
減価償却累計額	△1,571	△1,856
車両運搬具(純額)	142	569
工具、器具及び備品	2,183,750	2,428,046
減価償却累計額	△1,838,392	△1,897,173
減損損失累計額	△61,424	△57,729
工具、器具及び備品(純額)	283,933	473,143
土地	26,033	26,033
リース資産	497,003	497,003
減価償却累計額	△346,371	△402,517
減損損失累計額	△21,778	△25,094
リース資産(純額)	128,853	69,391
建設仮勘定	115,152	14,212
有形固定資産合計	2,526,072	3,120,818
無形固定資産		
のれん	321,821	608,529
その他	85,007	83,560
無形固定資産合計	406,829	692,090
投資その他の資産		
差入保証金	3,830,016	3,840,409
その他	596,379	773,367
貸倒引当金	△2,760	—
投資その他の資産合計	4,423,636	4,613,777
固定資産合計	7,356,537	8,426,686
資産合計	12,422,285	14,157,684

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	518,220	653,557
短期借入金	58,000	—
1年内返済予定の長期借入金	1,543,361	1,950,667
1年内償還予定の社債	400,000	400,000
未払法人税等	276,207	116,664
賞与引当金	34,642	83,875
株主優待引当金	18,088	5,552
ポイント引当金	12,833	21,999
資産除去債務	21,752	23,769
その他	1,580,998	2,125,614
流動負債合計	4,464,104	5,381,702
固定負債		
社債	1,010,000	660,000
長期借入金	2,888,894	4,103,047
資産除去債務	367,645	419,741
その他	700,931	479,089
固定負債合計	4,967,471	5,661,877
負債合計	9,431,576	11,043,580
純資産の部		
株主資本		
資本金	502,015	502,015
資本剰余金	492,015	492,015
利益剰余金	1,958,725	2,101,578
自己株式	△71,391	△71,545
株主資本合計	2,881,363	3,024,062
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	89,149	69,845
その他の包括利益累計額合計	89,149	69,845
新株予約権	20,196	20,196
純資産合計	2,990,708	3,114,104
負債純資産合計	12,422,285	14,157,684

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	18,255,045	19,005,483
売上原価	4,129,875	4,109,560
売上総利益	14,125,169	14,895,923
販売費及び一般管理費	13,924,454	14,323,544
営業利益	200,714	572,378
営業外収益		
負ののれん償却額	91,316	—
為替差益	13,995	48,437
その他	66,601	78,434
営業外収益合計	171,913	126,871
営業外費用		
支払利息	74,041	76,892
支払手数料	30,543	32,994
その他	14,629	18,402
営業外費用合計	119,214	128,289
経常利益	253,413	570,960
特別利益		
固定資産売却益	6,987	3,146
固定資産受贈益	11,289	—
立退補償金	71,428	—
特別利益合計	89,705	3,146
特別損失		
固定資産除却損	23,644	12,617
減損損失	79,318	60,905
本社移転費用	23,376	—
その他	15,313	32,472
特別損失合計	141,653	105,996
税金等調整前四半期純利益	201,464	468,111
法人税等	131,016	266,115
少数株主損益調整前四半期純利益	70,447	201,995
四半期純利益	70,447	201,995

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	70,447	201,995
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	30,270	△19,304
その他の包括利益合計	30,270	△19,304
四半期包括利益	100,718	182,691
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,718	182,691
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	飲食事業	アミューズ メント事業	ライセンス 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,629,471	4,588,553	37,020	18,255,045	—	18,255,045
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,629,471	4,588,553	37,020	18,255,045	—	18,255,045
セグメント利益又は セグメント損失(△)	831,721	369,590	△36,416	1,164,895	△964,180	200,714

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△964,180千円は、各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」において、撤退予定の4店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては47,033千円であります。

「アミューズメント事業」において、撤退予定の1店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては32,284千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	飲食事業	アミューズ メント事業	ライセンス 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,026,709	4,934,840	43,934	19,005,483	—	19,005,483
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,026,709	4,934,840	43,934	19,005,483	—	19,005,483
セグメント利益	1,115,753	582,875	13,586	1,712,215	△1,139,836	572,378

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,139,836千円は、主に各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」において、撤退予定の2店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては40,570千円であります。

「アミューズメント事業」において、撤退予定の1店舗等について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては20,335千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」において、KOMARS F&B PTE. LTD. の全株式を取得したこと及び当社の完全子会社である株式会社ゴールデンマジックが飲食店舗を事業譲受したことにより、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、397,580千円であります。

KOMARS F&B PTE. LTD. は、平成26年10月1日付でDiamond Dining Singapore Pte.Ltd. へ商号変更しております。